

福岡県民と医師をつなぎ、あしたの健康へとつなぐ

えがおから

医療ブック

EGAO
KARA
medical book

vol.28
2025



ワンヘルスで考える、
やさしい共生のかたち。
人と動物の
健やかな暮らし



福岡県医師会

えがおから 医療ブック
【福岡県医師会広報誌】

Vol.28

発行・編集／公益社団法人福岡県医師会
〒812-8551 福岡県福岡市博多区博多駅前2-9-30 TEL.092-431-4564 <https://www.fukuoka.med.or.jp/>

福岡県医師会
公式SNS等



LINE



YouTube



Facebook



X

地域の中で人々を支える「看護職員」を目指してみませんか？

看護職員(准看護師・看護師・助産師)を目指すことができる医師会立の看護師等養成所が県内各地域にあります。入学願書受付期間・入学試験日等詳細は各学校にお問い合わせください。

地域	養成所名	課程	TEL
北九州	北九州小倉看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	093-551-3184 093-551-3183
	八幡医師会看護専門学院	看護師3年課程 准看護師課程	093-671-1507
	北九州市戸畑看護専門学校	看護師2年課程	093-881-5641
	遠賀中間医師会立遠賀中央看護助産学校	助産師課程 看護師3年課程	093-203-2333
	豊前築上医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0979-82-0607
福岡	福岡市医師会看護専門学校	看護師3年課程 看護師2年課程	092-852-1530
	筑紫看護高等専修学校	准看護師課程	092-922-5684
筑豊	直方看護専修学校	准看護師課程	0949-22-0512
	飯塚医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0948-22-3559
筑後	久留米医師会看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0942-34-4189 0942-34-4184
	大牟田医師会看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0944-32-8152 0944-52-7698
	八女筑後看護専門学校	看護師2年課程 准看護師課程	0943-24-4877 0943-23-6284
	あさくら看護学校	看護師3年課程	0946-22-5510
	柳川山門医師会看護高等専修学校	准看護師課程	0944-72-8086

県内の医師会立看護師等養成所一覧は
福岡県医師会ホームページよりご覧いただけます。

https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/nursing_school/list.html



福岡県ナースセンターのご紹介

福岡県ナースセンターでは、看護職のみなさまをサポートするため、さまざまな活動を行っています。

- ★ 再就職を希望する看護職の方への職業紹介・就業相談(無料)
- ★ 看護職を雇用したい施設への求職者の紹介(無料)

詳細はこちら↑

看護職の方に安心して再就職していただくため、実技を含めたさまざまな研修を開催しています。

詳細はこちら→



ワンヘルスで考える、
やさしい共生のかたち。

人と動物の 健やかな暮らし

動物とのふれあいは、私たちに癒しや元気をもたらしてくれます。しかし接し方によっては、動物に負担をかけたり、私たちの健康に悪い影響を及ぼしてしまう可能性もあります。人と動物が安心して共に暮らせるよう、正しい理解を持ちましょう。



知っていますか？
「人獣共通感染症」
人と動物に共通する病気で「動物→人」、「人→動物」へうつる感染症のことです。
ウイルスや細菌、寄生虫などが原因となり、軽症から重症までさまざまな感染症があります。なかには狂犬病のように命に関わるものもあり、新型コロナウイルス感染症や鳥インフルエンザもその一例です。実は、人の感染症の約60%がこれに該当すると言われていますよ。

01 ペットとの暮らし

家族の一員だからこそ、守りたい。

一緒に暮らす動物は、私たちにとってかけがえない存在です。ただ、身近で過ごすからこそ、気づかぬうちに病気がうつってしまうリスクもあります。ペットとの生活を安心して楽しむためには、責任を持って世話をし、お互いの健康に配慮することが大切です。



ペットと共に暮らす上で、次のことを心がけましょう。

ペットの健康管理

- フラッシングやつめ切りなどこまめに手入れをする。
- ペットのケージや寝床を清潔に保つ。
- 予防接種や予防薬で、病気になるリスクを減らす。

衛生管理

- 排泄物は、できるだけすぐに片付ける。
- 排泄物に直接触れないよう注意し、手袋やマスクを使う。
- ペットに触れる前後には、しっかり手を洗う。

接する際の注意点

- 口移しでご飯をあげたり、同じ食器を使ったりしない。
- 同じ布団で寝ることは避ける。
- ペットに顔を舐めさせないように気をつける。

※もし飼い主さんが体調を崩して医師の診察を受ける際は、「ペットを飼っていること」を伝えるようにしましょう。

犬猫の予防接種

ワクチン接種は感染症からペットを守る大切な手段です。散歩中の感染もあるため、定期的な接種をおすすめします。

狂犬病ワクチン

犬 義務

日本では、すべての犬に対して年に1回のワクチン接種が義務付けられています。ワクチンが適切に接種されると、狂犬病ウイルスのまん延をほぼ完全に防ぐことができます。

混合ワクチン

犬 **猫** 任意接種

生後2ヶ月頃からの混合ワクチンは、犬同士・猫同士でうつる伝染病に対し、1本の注射で複数の病気をまとめて予防するものです。事前に接種することで、感染症の予防や症状の軽減が期待できます。

人獣共通感染症の一例

病名	関係する主な動物	動物の主な症状	人の主な症状
狂犬病	犬・猫・その他	狂騒または麻痺、昏睡して死亡	発熱、頭痛、倦怠感、筋痛、疲労感、食欲不振、悪心・嘔吐、咽頭痛、空咳など
オウム病	鳥	下痢、元気消失	高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛
レプトスピラ症	犬・その他	腎機能の低下、蛋白尿	発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、腹痛、結膜充血など
サルモネラ症	犬・猫・鳥・その他	多くは無症状	胃腸炎
Q熱	犬・猫・その他	多くは無症状	発熱、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、呼吸器症状など
エキノコックス症	犬・その他	多くは無症状	腹痛、肝機能障害
高病原性鳥インフルエンザ	鳥・その他	突如の死亡、元気消失、下痢	高熱、呼吸不全、呼吸困難

適切な関係を保ち、共に生きる

野生動物との暮らし

近年、私たちの生活圏で野生動物を見かける機会が増え、威嚇されたり、家屋に侵入されたりするトラブルが各地で発生しています。こうした被害を防ぐには、野生動物の習性を理解し、適切な距離を保つことが大切です。うまく共存できるように、日頃から心がけましょう。

野生動物が人の暮らす場所に出没するのは、エサを求めていることが大きな理由です。食べ物を与えたり、ゴミを放置したりすると、人の食べ物に依存してしまい、出没が増える原因になります。また、登山やキャンプでは、私たちが野生動物の生活圏に入ることになります。もし動物を見かけても、むやみに触れないようにしましょう。特に、好奇心旺盛な小さなお子さんには十分注意してください。



参考文献：国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト

福岡県でよく目撃される野生動物

【サル】



●体長：約50～60cm／雑食性
メスを中心とした数十頭の群れで行動。一定の行動範囲内で、エサを求めて巡回する習性を持つ。
【人獣共通感染症の一例】
サル痘(エムボックス)：発熱や発疹、頭痛、悪寒、局所リンパ節腫大など
Bウイルス病：咬傷部位の水疱、疼痛や所属リンパ節の腫大など

【シカ】



●体長：約90～160cm／草食性
1.5メートル以上の障害を跳び越えるほどのジャンプ力があり、角を持つオスは交尾期に攻撃的になるため、特に警戒が必要。
【人獣共通感染症の一例】
腸管出血性大腸菌感染症：軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便など
Q熱：発熱、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、呼吸器症状など

【イノシシ】



●体長：約100～150cm／雑食性
オスは牙を持つ。威嚇音(シュー、カッカカッ、クチャクチャ)を発したら注意が必要。
【人獣共通感染症の一例】
日本脳炎：高熱、頭痛、嘔気、嘔吐など
SFTS：発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)など

【イタチ】



●体長：約30～40cm／肉食性
気性が荒く、攻撃的な性格。民家に侵入した場合は床下や屋根裏に棲み着く傾向がある。
【人獣共通感染症の一例】
狂犬病：発熱、頭痛、倦怠感、筋痛、疲労感、食欲不振、悪心・嘔吐、咽頭痛、空咳など
SFTS：発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)など

【アナグマ】



●体長：約45～70cm／雑食性
くすんだ褐色の体に、鼻先から頭部にかけて白い線がある。巣穴や側溝などに潜んでいることが多い。
【人獣共通感染症の一例】
レプトスピラ症：発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、腹痛、結膜充血など
トキソプラズマ症：体中の痛みや発熱など

【アライグマ】 (特定外来生物)



●体長：約30～60cm／雑食性
夜行性で、手が器用で木登りが得意。なんでも食べる雑食性で大食漢。繁殖力が旺盛。
【人獣共通感染症の一例】
アライグマ回虫症：好酸球性髄膜脳炎、一側性の網膜炎
レプトスピラ症：発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、腹痛、結膜充血など

【鳥】



●ハトなど、現存する鳥類は1万種以上。
【人獣共通感染症の一例】
鳥インフルエンザ：高熱、呼吸不全、呼吸困難など
オウム病：高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛など

【タヌキ】



●体長：約50～70cm／雑食性
「ため糞」と呼ばれる習性があり、決まった場所に糞をする。木や柵を上るほか、1メートル近くジャンプすることもある。
【人獣共通感染症の一例】
レプトスピラ症：発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、腹痛、結膜充血など
疥癬症(かいせんしょう)：激しい痒み

もし野生動物に遭遇したら…

- 1 近づかない、エサを与えない、目を合わせない
- 2 大声を出したり、物を投げたりしない
- 3 慌てず、ゆっくりと静かにその場を離れる
- 4 弱っている場合や死骸を見つけた場合も、素手で触れない

人を怖がらず警戒しない様子が見られる場合は、特に注意してください。

もし野生動物に噛まれたら…

- ### 応急処置
- 1 傷口を流水でしっかり洗い流す
 - 2 出血が続く場合は、清潔な布で押さえて止血する
 - 3 腫れがある場合は、冷たいタオルや保冷剤で冷やす



野生動物に噛まれると、感染症のリスクがあります。傷口をすぐに洗浄し、出血が多い場合は圧迫して止血し、うえて、なるべく早めに形成外科や救急対応のある病院を受診しましょう。

知って
おきたい

動物アレルギーの 基礎知識

ペットとの時間は楽しいものですが、動物の毛やフケ、唾液、糞尿などがアレルギーとなり、アレルギー反応を引き起こすことがあります。症状は人それぞれで、接触の仕方や体調によっても異なります。まれに重篤なアナフィラキシーを起こすこともあるため、注意が必要です。

監修
九州大学
大学院医学研究院
皮膚科学分野 教授
中原剛士 先生

01 こんな症状、 ありませんか？

【鼻の症状】
くしゃみや鼻水(さらさらとした水のような状態)、鼻つまり

【肌の症状】
かゆみを伴う湿疹(特に目や耳のまわり、首、ひじ・ひざの内側などに出やすい)

【呼吸の症状】
咳が続く、ゼイゼイ・ヒューヒューとした呼吸音(喘鳴)、息苦しさ

【その他の症状】
目のかゆみや充血、蕁麻疹(じんましん)、まれにアナフィラキシー

02 もしかして…と思ったら 「動物アレルギー検査」を受けましょう

気になる症状が続く場合は、皮膚科やアレルギー科、または血液検査を行っている医療機関でアレルギー検査を受けることをおすすめします。血液検査や皮膚テストによって、

✓アレルギー体質かどうか
✓どの動物がアレルゲンかを調べることができます。

アレルギーの原因が分かれば、症状を和らげるための対策を考えやすくなるでしょう。

03 予防と対策

アレルギーは年齢とともに悪化することが多く、自然に治ることはほとんどありません。動物との接触を避けることが理想ですが、一緒に暮らしている場合は難しいこともあるでしょう。その場合、治療薬を活用しつつ、02ページで紹介した基本的な心がけに加えて、左記のような対策をすることで症状が和らぐかもしれません。

- ペットを定期的に洗うなど、清潔にする
- ペットの専用スペースを設け、寝室には入れない
- 可能であれば屋外で飼育する
- 毎日部屋の換気を行う
- 高効率の掃除機でこまめに掃除する
- カーペットや布製品の使用を避ける
- HEPAフィルター付き空気清浄機を設置する
- 鼻を塩水で洗浄する
- 症状が重度の場合は専門医へ相談する

今の私たちと未来を守る One Health (ワンヘルス) という考え方



ワンヘルスとは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康として捉え、一体的に守っていくという考え方です。人と動物の間でうつる「人獣共通感染症」は、世界的に増加の一途をたどっています。その背景には人口増加や森林開発、気候変動などによる、人と動物の関係の変化があると考えられています。野生動物が持っていた病原体が、人に感染しさらに広がることで、新型コロナウイルス感染症のような大規模な流行(パンデミック)を引き起こすこともあるのです。

こうした状況から、「人」「動物」「環境」の健康は互いに深く関わっていると捉えられるようになってきました。私たちが健康に暮らしていくためには、動物や自然環境にも目を向ける必要があります。そのためには医師や獣医師、研究者だけでなく、行政や企業、市民も協力し、共に解決していくことが求められます。

ワンヘルスを進めるための 6つの基本方針

- 人獣共通感染症対策
- 薬剤耐性菌対策
- 環境保護
- 人と動物の共生社会づくり
- 健康づくり
- 環境と人と動物のより良い関係づくり

知っていますか？

bush meatの 感染症リスク

海外では近年、森林開発が進み、今までほとんど人類が踏み入れることなかった森林地域にも人が立ち入るようになってきました。そのような森林に棲んでいる動物は、今まで人類が接触することのなかった病原体(ウイルスや細菌など)をもっている可能性があります。そのような地域で狩りを行い、捕まえた動物を加熱処理しないまま路上で販売するケースが増えており、そうして売られている動物の肉を「bush meat(ブッシュミート)」と呼びます。森林開発に伴ってbush meatを発生源とする新たな感染症の発生が懸念されています。



出典:ワンヘルスセンター、福岡県ワンヘルス推進ポータルサイト

ワンヘルスセンター

新興感染症や地球温暖化などのワンヘルスの課題に対応する実践拠点として、全国初の「ワンヘルスセンター」の整備が進んでいます。その中核施設として、人の健康や環境保全に関する調査・研究を行う「保健環境研究所」を移転・建設するとともに、家畜、愛玩動物、動物園などで飼育されている展示動物、野生動物の保健衛生を一元的に担う「動物保健衛生所」が新設されます。他に類を見ない、「人」「動物」「環境」の各分野に関する一体的な調査・研究ができる特徴を生かして、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究や専門人材の育成などが進められます。ワンヘルスセンターは、みやま市の保健医療経営大学跡地に整備し、2027(令和9)年度中の供用開始を目指しています。